



卯の会



1971年の当院

目次

- 創立40周年を迎えて……………P2
- 理事長へのインタビュー……………P3
- 満足度アンケート結果報告……………P4
- 心理教育・年間案内……………P6
- 栄養課からのレシピ紹介……………P7

■ 創立40周年を迎えて



院長 新垣 元

このたび、平成22年4月15日をもち新垣病院は創立40周年を迎えることができました。これもひとえに、関係者みなさまの日頃からのご理解とご協力の賜物だと感謝しています。

新垣病院創立当時(昭和45年)の沖縄は、日本復帰前で社会全体が混乱していました。特に中部地区の精神障がい者を取り巻く環境は劣悪の極みにありました。今でこそ精神科の医療福祉サービス提供体制が整えられてきましたが、当時は崩壊の中からの病院創造だったようです。

私は平成12年から新垣病院の院長を仰せつかっておりますが、この間にも社会は複雑さを増し変化し続けています。この社会情勢の下でますます心の問題に関する専門的なサポートが必要になることと考えられます。私どもにはこれまで以上に世間から期待され、その期待に沿うための努力が必要とされております。

私たちは、創立40周年にあたり、心新たに開院当時の思いを思い起こし、病院の理念にある「愛」を基本に、職員一同いっそうの努力と研鑽を期する所存でございます。今後ともご指導御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



医師 石川 亀一

医療法人 卯の会 新垣病院は今年で創立40周年を迎える。

創立当時の沖縄は米国民政府(USCAR:ユースカーと略称していた)の統治下にあった。そのユースカーが発行するパスポートを所有しなければ沖縄から一步も出られなかった。学生時代に九州から沖縄に帰省するには空路はなかったので沖縄航路の船に乗るしかなかったが、パスポートと、何故か種痘接種の証明書も出入国管理官に呈示しなければ乗船も下船も出来なかった。沖縄は外国だったわけだ。

米国は結核などの感染症には気を配り結核療養所は充実していたが、精神障害者には関心が薄かった。街には放浪している精障者をよく見かけたし、病床が足りなくて自宅監置される悲惨なケースも少なくなかった。初代院長(現理事長)はこのような状況下で、精神病床の空白地帯であった沖縄市(当時はコザ市と呼ばれていた)に精神障害者の地域医療を目指した保健所や福祉事務所と連携を取りながら精神病院を設立した。更に設立当初から看護学校と連携して、不足していた精神科看護師の育成にも力を入れて来た。理事長による精神障害者の医療と福祉という地域医療の理念は、創立以来現在に至るまで脈々と受け継がれている。

新垣病院の主な歩み

平成20年	12月	電子カルテ導入
	9月	医療観察法指定通院医療機関
	2月	本館増設(トレーニングルーム・CT導入・作業療法活動室)落成
平成19年	5月	障害者自立支援法精神通院医療指定医療機関
平成18年	12月	特定病院認定
	8月	治験開始
	4月	日本精神神経学会精神科専門医研修施設
平成17年	10月	精神科救急病棟 認可
平成15年	10月	協力型臨床研修病院(群星沖縄) 指定
平成14年	4月	通所授産施設「あたら舎」開設
平成13年	12月	精神障害者グループホーム「なごみ荘B」開設
	9月	精神科急性期治療病棟 認可
	4月	新垣病院新館 落成
平成12年	9月	精神障害者グループホーム「なごみ荘」開設
平成10年	6月	沖縄県精神科救急医療システム 業務委託
平成9年	7月	あらかきクリニック 開設
平成8年	4月	社会復帰施設 援護寮「ラポール」・福祉ホーム「ホープ」開設
平成7年	8月	精神療養病棟 認可
平成5年	9月	地域医療室 開設
	4月	痴呆病棟 落成
平成元年	3月	医療法人「卯の会」設立
昭和49年		コザ看護学校 実習受け入れ(看護実習生受け入れスタート)
昭和46年	8月	新垣病院 増設
昭和45年	4月	新垣病院 開設

新館外観▶



メンタルヘルスフェアの様子▶



▲認知症病棟落成式



▲認知症病棟外観

ラポール落成式▶



理事長へのインタビュー

～創立から現在までを振り返って～

創立から現在までの振り返っていただくため、理事長にいくつかの質問をさせていただきました。インタビューの内容の一部を要約して掲載しました。インタビューの中で、ある利用者の方々が回復されていく話を随所にまぜ、目を細めうれしそうに語られているのが印象的でした。



理事長 新垣 元武

・開業しようと思われたきっかけは何ですか？

40年前、私宅監置は禁じられていたが、当時の琉球政府の予算不足と医師不足で受け入れる場所がなく私宅監置が多い状態であったように思います。監置されている方々が治療を受けられるように琉球政府は病床数を増やそうと努力していたがなかなか増えなかった。ちょうどその頃、私の琉球精神病院での勤務契約義務が切れようとしていたので開業に踏み切りました。

・開業当時苦勞されたことは何ですか？

開業資金が全然なくて土地を購入するところから困りました。しかし、色々な人のつながりがあり、理解と協力を得て開業することができました。



新築落成式▲

・当時の病院の体制はどのようなものでしたか？

(精神科病院が)北部の琉球病院と南部にひとつしかない状況の下、県で3番目、中部で初めての精神科の病院をスタートすることになりました。3名の医師を含む20数名のスタッフと109床で始めました。開設後3ヶ月ですぐ満床になり、その年に増設を着工し翌年には223床になりました。それだけ治療を受けたいと思っていた方が多かったのかも知れません。

入院治療整備と同時に、訪問看護、デイケア、生活訓練施設、共同住居、就労訓練施設などを整備し入院治療だけでなく外来治療にも力を入れてきました。*

*注:現在、スタッフは多職種にわたりその数は300名余で当時の約10数倍、精神科病床数は223床(認知床病棟50床を加え総数273床)と変化していません。それだけ退院後のリハビリや外来治療や認知症のケアにも目を向け治療体制整備に取り組んできたということかも知れません。

・これまで大切にしてきたことは何ですか？



▲新垣病院職員のエイサー隊

職員を大事にしました。当時の病棟の5階部分に看護宿舎を用意しました。当時の一般の看護宿舎は2段ベッドがズラリとならぶような余りいい環境ではなかったが、当院では職員が快適な生活が送れるように1~2名ひと部屋の看護宿舎を用意しました。また、看護師の教育にも力を入れてきました。病棟消灯後、よく病棟のスタッフにレクチャーにいきましたが、あんまりやると仕事に差障るからと止められてしまって(笑)…。現在の院内の研修会などはその名残だと思います。

また、地域とのつながりを大切にしてきたように思います。開業する1年半ほど前から週に1回はコザ保健所に嘱託医として出向し、頼まれたら積極的に往診にも出かけました。他にも中部福祉事務所や養護学校嘱託医と病院業務以外にも地域の仕事もさせていただきました。当時医師が少なく、断ったらやる人がいない。じゃあ私たちがやろうと思いでやっていました。当時の開業当初の看板には月曜から土曜までの診療時間は9時から5時半まで、日曜は半日。そのときは年中無休で、仕事も自宅に持ち帰って…振り返るとそんなにやったのかなと思います(笑)。年中無休でプライベートとの境がないような感じでした。人のため、世のためを考えて、今の世の中は何を求めているのだろうか考え動いていたように思っています。

・今後の展望と読者に向けてひと言お願いします。

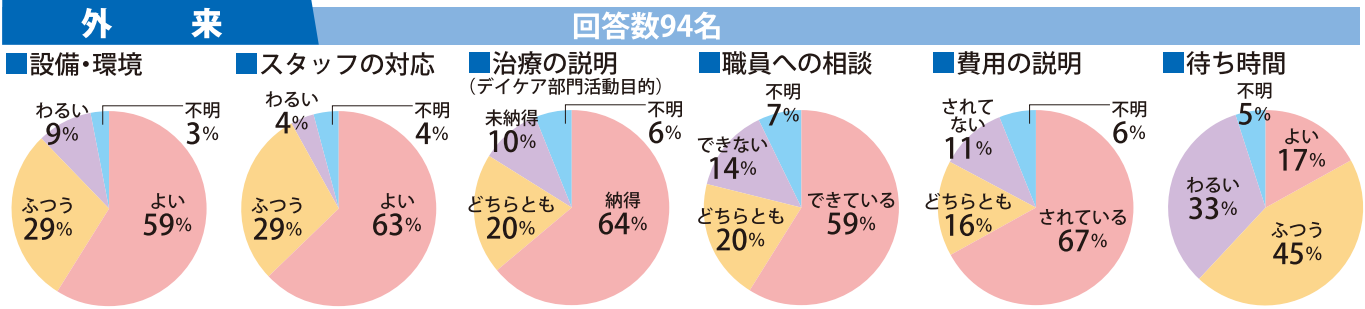
今後も「地域から求められる病院」を運営し続けていけるといいなと感じています。精神科の治療において、長期入院するよりも短期入院し早く元の生活に戻る方が回復し予後がいいように感じています。なぜなら、長期入院になるとどうしてもご家族や社会から離れてしまい社会から取り残されできないことが増えてしまいます。一方短期入院治療はご本人のやれていることを維持できる。ご本人や家族にとってもその方がいいと思います。しかし、短期入院で早期に地域で生活してもらうためには、ご家族や地域の方々の協力が不可欠だと感じます。

また、精神障がい者の社会参加は地域の理解と協力がなくては実現するのは難しいと思います。近年は社会の理解も深まり、障がい者が受け入れられ雇用されるようになってきました。地域の方々に理解していただき「ありがたいな」と感謝しています。今後も、精神障がい者の支援を家族や地域の方とともに協力して携わっていきなると考えています。ご理解とご協力をよろしくお願いします。

満足度アンケート結果報告 サービス委員会

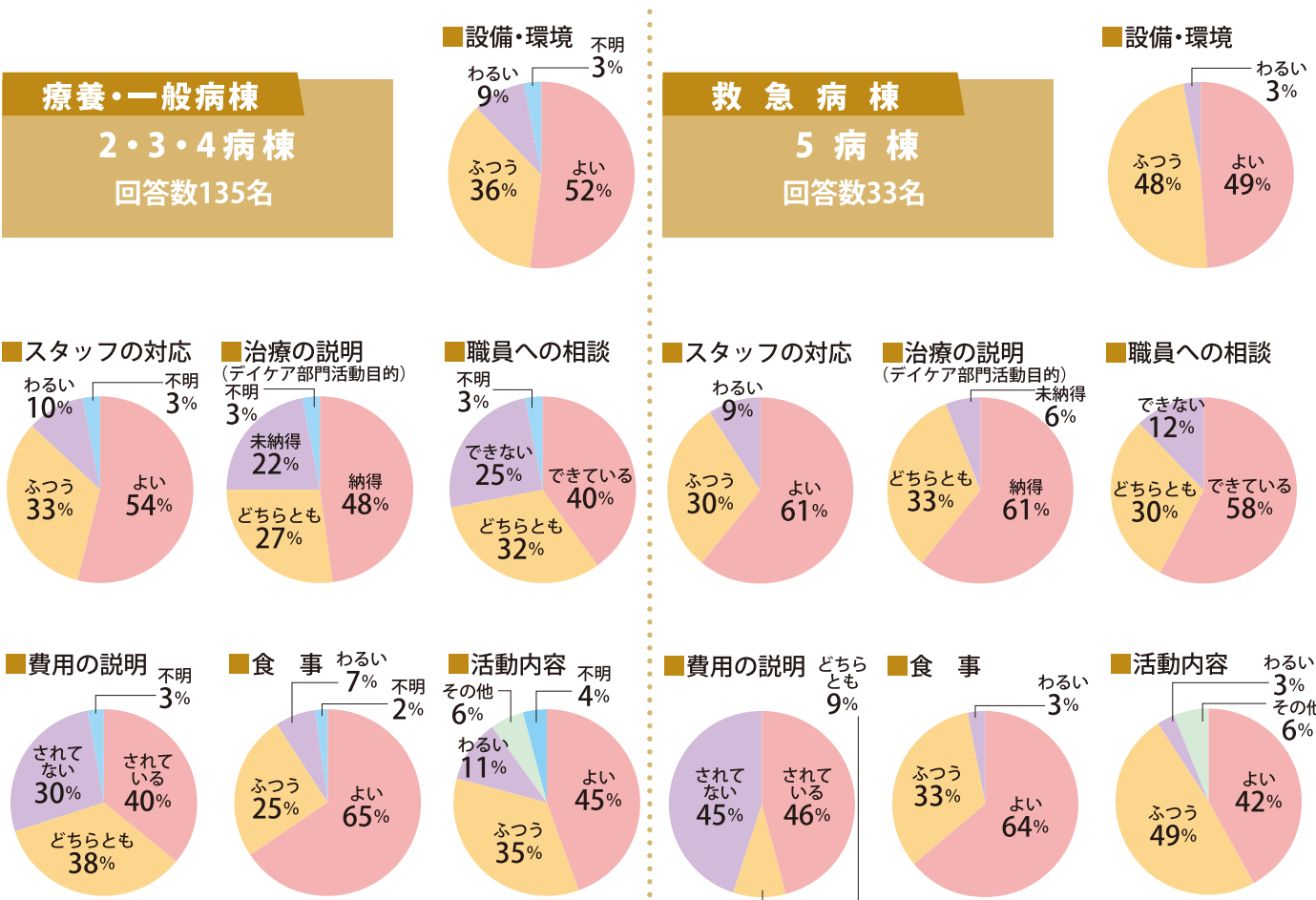
■ 平成22年1月から2月にかけて、当院の満足度を調査させていただきました。

今回は外来、病棟(救急病棟、一般病棟、療養病棟)、デイケア部門(デイケア、デイナイトケア、認知症デイケア)の7部署の満足度を調査しました。選択式・自由記述式アンケートで「設備・環境」「スタッフの対応」「治療説明(デイケア部門の方に対しては活動目的に納得しているか)」「スタッフへの相談」「費用・支払いの説明」「食事」「活動内容」の7項目の満足度について回答いただきました(外来は食事の提供が無いため「食事」を除く6項目)。総数392名の方にアンケートにご協力いただきどうもありがとうございました。



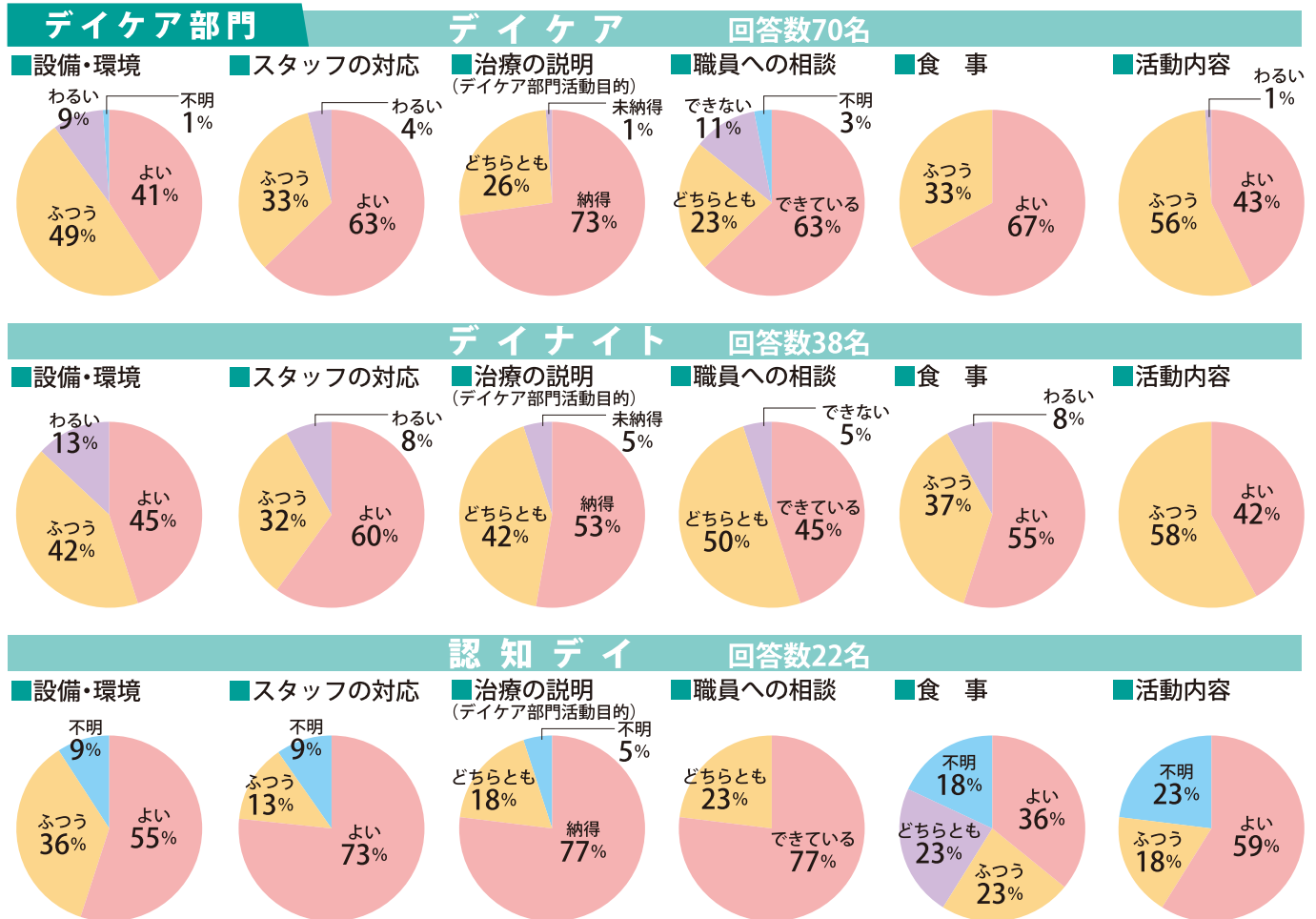
■外来について

設備・環境」「スタッフの対応」「治療やお薬についての説明」「スタッフの相談」「治療費用や支払いに関する説明」は概ね満足いただいていることが分かりました。しかし、「診察待ち時間」に関しては4割近い方が不満に感じていることが判明しました。 外来診察を待っていらっしゃる方は主にTVを観たり、雑誌・新聞・本をよんで待たれたり、音楽を聴いてお待ちいただいているようです。今後、待ち時間を減らす努力、待ち時間の有効活用と待ち時間を負担に感じないための工夫(環境整備やお声かけなど)をしていきたいと考えています。



■病棟について

設備・スタッフの対応・治療やお薬についての説明・病院食に関しては概ね満足頂いていることが分かりました。しかし、「スタッフへの相談できているか」「費用や支払いについての説明」「活動内容に関して」は改善をしていく必要があると気付かされる結果となりました。病棟によってばらつきがありますが、スタッフにもっと相談したいと思っている療養者が多いことがわかりました。救急病棟・療養病棟いずれの療養者も費用や支払いに関して知りたいことが判明しました。今後、療養者がもっと気軽にスタッフに相談しやすい体制を整えていくこと、費用と支払いに関してご家族だけでなく療養者本人へも説明していく必要があると感じました。病棟の活動に関しては、療養者が活動に飽きずに治療やリハビリに対して意欲を維持できる工夫が必要であると考えます。



■デイケア部門について

デイケア全部門のアンケート結果から感じたことは、利用者が家族や仲間とデイケアの話題にできて交流が深まるようなリハビリテーション活動を展開できるという点を感じました。

・精神デイケアセンター

利用者は概ねデイケアセンターに関して満足いただいていることが分かりました。結果から利用者が希望している活動がたくさんあることに気付かされ「やってみたいこと」「やりたいこと」を実現していくためのお手伝い出来るように工夫していきたくと思います。

・精神デイナイトケアセンター

利用者が納得した上で活動に参加していただくこと、相談しやすい雰囲気を作っていくことが課題であると感じました。利用者とは話し合い、活動を計画し、リハビリテーションプランを組んでいくように務めていきたいと考えています。

・認知症デイケア

認知症デイケアのアンケートは主にご家族に回答いただきました。ご家族が当デイケアに求めていることはデイケアでの様子や食事について家庭で話題にしたいということでした。今後、デイケアの様子を家で話題に出来るように工夫していきたくと考えています。

今回のアンケート結果からこれまで私たちが提供してきた医療サービスを振り返り、身の引き締まる思いをしました。今回、皆様から様々なご意見・ご感想を反映し皆様のご期待に応えより良いサービスを提供できるように務めてまいりたいと思います。今後もお気づきの点がありましたら当院スタッフまでお気軽にお伝えいただくか、ご意見・ご提案箱に投函していただきますよう宜しくお願いします。

心理教育・年間案内

家族心理教育セミナーが変わります

当院の心理教育セミナーはこれまで「統合失調症」、「薬物療法」、「リハビリテーション」、「社会資源」、「利用者との交流会」など各回テーマを設け年6回開催してきました。しかし、ここ数年、参加者のニーズが多様化しているように感じます。まず、「統合失調症の病気と治療法について学びたい」というご家族の声が多くなりました。また、「回復期のリハビリテーションについて知りどのようにサポートしていくか知りたい」ため参加されている方も多く感じます。最後に、「利用者ご本人の体験談を聞き参考にしたい」という声が増えています。

そのため、**今年度より家族心理教育セミナーを3本柱で開催します。セミナー①は「病気や治療の正しい知識を得て不安を軽減する」ことを目的とします。**これは、主に救急病棟に療養されている方のご家族や病気や治療法について知りたいというご家族向けのセミナーです。**セミナー②は「療養者とともに家族も元気になる」ことを目的とします。**これは症状が安定し地域社会生活に再適応していくための支援について知りたいと感じているご家族向けのセミナーです。**セミナー③は「利用者の体験から学ぶ」ことを目的とします。**これは回復にある利用者と交流し、ご家族が日ごろから感じていることを話し合い関わりの工夫を一緒に考える機会としたいと思えます。

今後、詳細を院内掲示板に告知し、申込用紙を病棟・外来・関連施設にご用意いたします。ご希望のセミナーに丸をつけお申し込みください。なお、ご不明な点・ご意見などございましたら、**地域医療相談室(098-933-2756)**までお気軽にご連絡ください。

セミナー①	セミナー②	セミナー③
「病気や治療の正しい知識をえて不安を軽減する」	「療養者とともに家族も元気になる」	「利用者から学ぶ会」
平成22年 8月14日(土) PM2:00~3:00	平成22年 7月24日(土)「安定した状態を維持するためには」 9月25日(土)「回復モデル(地域生活と就労まで)」 11月27日(土)「家族ができること・できないこと」 平成23年 1月22日(土)「地域での居場所・つながり」 3月26日(土)「再入院・再発を防ぐ：短期入院の上手な利用法」	平成22年9月・3月に開催予定しています。 詳細は院内ポスターをご覧ください。
今後も定期開催していきます。 詳細は院内ポスターをご覧ください。		

※5月の家族心理教育セミナーは、勝手ながら家族会主催の講演会(5月29日)と合同開催させていただきました。ご了承下さい。

共済会文化講演会

～高見知佳さんをお招きして～

平成22年 5月21日(金)PM6:00～当院コミュニティーホールにて文化講演会が開催されました。



今回は、スーパー主婦(本人談)の高見知佳さんをお招きして『読み語りで伝える絵本の世界』をテーマに講演会を開催致しました。学校や地域の集まりで精力的に読み語りの活動をされ、兼ねてから評判を耳にしておりましたが、評判通りのとても素晴らしい講演会でした。開口一番の挨拶から注意をひきつけられ、トークと読み語り織り交ぜでの展開、抑揚のある口調に会場みんながドンドン話しに引き込まれていくのを感じました。彼女の口調や声のトーンをかえて会場に語りかけているのを目の当たりにして、自分たちも利用者さんに対して話し方を工夫してコミュニケーションをとっていくともっと伝わるだろうと思いました。沖縄へ嫁いできた私(目取眞)にとって最後の絵本のくだりでは離れて暮らしている母への想いが強くなり涙なしでは聞けませんでした。命の誕生について、また家族(子・親)への想いについて日々の慌しさの中でゆっくり考えることのなかった話題について振り返る機会となりました。涙あり笑いありと感動的な時間を持つ事ができ大満足でした。



(共済会 目取眞恵子)

栄養課
からの
レシピ紹介

調理
時間
15分
1人
450 kcal



材料 (4人分)

・うどん	4玉	・煎りゴマ	小さじ2
・ツナ缶	2缶	・めんつゆ	適宜
・生わかめ	1カップ	・ごま油	大さじ2
・にんじん	1/2本	・アサツキ	5本
・厚揚げ	1枚	・きゅうり	1本

美肌を目指す方必見!?

食欲が低下しているときに食べたい冷やし麺。それだけでは、夏の日差しに疲れている体やお肌を元気にすることはできません。ここでは、食事の面から乾燥肌、ニキビ、シミ、そばかすに有効なビタミンAとEを上手にとれるメニューを紹介します!

作り方

- ① うどんは茹でて冷水にとり、冷やしておく。
- ② 厚揚げはオーブントースターで4～5分かけてこんがり焼き、一口大に切る。
- ③ 油切りしたツナ缶をボウルに入れ、ざく切りのわかめ、せん切りのにんじんを混ぜ合わせ煎りゴマ、めんつゆ、ごま油を加えて和える。
- ④ ③のボウルに厚揚げを入れ、さらに水気を切ったうどんも加えてよく混ぜる。このとき、味を見てめんつゆの量を加減する。
- ⑤ 器に盛り、小口切りのアサツキを散らし、せん切りのきゅうりを上に盛りつける。

ポイント

ゴマは外皮が固いので消化されにくく、体外に排出されてしまうことがあります。効果を高めたい時は、手間がかかりますが、すり鉢ですってすりゴマにするか、包丁で切って、切りゴマにすると消化が良くなり、吸収しやすくなります。

ビタミンA	皮膚や粘膜の新陳代謝を促し、健康に保つ。 (にんじん、ゴマ、わかめ)	ビタミンE	肌の新陳代謝を促す。 (ゴマ、厚揚げ)
ビタミンC	細胞の結合組織であるコラーゲンの合成に働き皮膚を強くする。 シミのもとであるメラニン色素の育成を抑える(わかめ)		

(管理栄養士：上原)

これからの主な病院行事予定

6月



20日 認知症病棟 & 認知症デイケア「家族のつどい」
PM 2:00開始

7月



19日 海の日 **外来休診**

24日 家族心理教育セミナー
「安定した状態を維持するためには」
PM 2:00開始

8月



14日 「病気と治療について」の
家族心理教育セミナー
PM 2:00開始

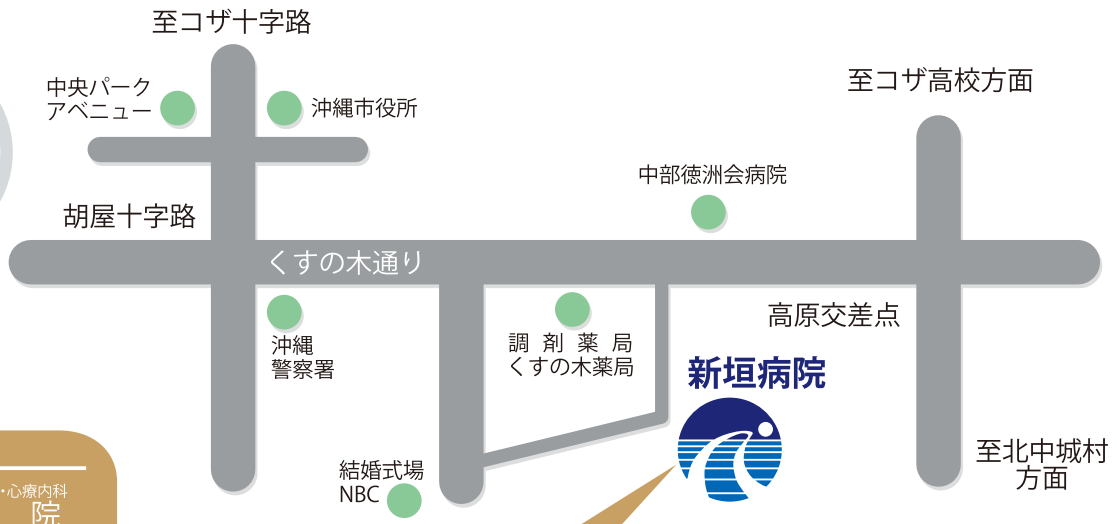
編 | 集 | 後 | 記 |

私は40年前何をしていたのかな？
そう、中学生でした。そのコザ中学のグラウンドからは、野原(たーぶっくあー)といわれた場所に大きな建物が出来ていく。それが新垣病院だったのです。

中学のマラソンコースは新垣病院の前を通り、昇りくだりの多いコースでした。病院前を走るときは患者さんの声援がありました。次の声援は「ぶた」でした。息を吸おうにも豚小屋の臭いがきつく、息を吸うどころじゃない、だけど吸わないといけない〜キツイ〜。今は豚小屋もなくなり、病院周りも建物が立ち並び、今のコザ中学からは病院は見えません。新垣病院が出来てから周辺も発展してきました。

コザ中学在学中から、自分が働く場所とは考えず運動しながら眺めていた新垣病院。私もここで勤めて30年を迎えました。あつという間の30年、しかし長かった30年です。これから地域に根差した医療を提供していきたいと思えます。(N)

当院への案内図



医療法人 卯の会 精神科・心療内科
新垣病院



〒904-0011 沖縄県沖縄市安慶田4丁目10番3号
TEL (098) 933-2756 FAX (098) 932-8123

医療

- 5 病棟:精神科救急病棟
- 4 病棟:精神科一般病棟
- 3 病棟:精神療養病棟
- 2 病棟:精神療養病棟
- 1 病棟:認知症病棟
- 外来・訪問看護
- クリニック

リハビリテーション

- 精神科作業療法
- 精神科デイケア
- 重度認知症患者デイケア
- 精神科デイナイトケア
- 通院患者リハビリテーション事業 (社会適応訓練事業)
- 外来作業療法

地域支援

精神保健福祉相談 ・自立および生活支援 ・入院・受診相談
啓蒙啓発活動

関連施設

あらかきクリニック ……TEL (098) 944-2007

自立支援事業所 ラポール ……TEL (098) 932-8100

グループホームあらかき ……TEL (098) 934-1940
なごみ荘A・B/れもんの家

就労支援事業所 あらた舎 ……TEL (098) 938-2100

禁煙について

今年、当院は「禁煙」に向けて取り組んでいきます。
まず、本館の喫煙所の場所が変わります。喫煙所の工事などで皆様にご迷惑をおかけするかと
思いますがご了承ください。

理念

私たちは博愛と奉仕の精神で診療に臨み
常に安心して満足いただける
最良の医療を目指します

基本方針

1. 利用者の人権と安全に配慮し、一人ひとりに最も適した医療を提供します。(人権・安全性・医療)
2. 地域と密接に連携し、利用者の社会参加、社会復帰の促進をはかります。(地域連携)
3. 快適な治療環境を追求し、「癒し」と「安らぎ」のための空間を提供します。(アメニティと医療の質)
4. 医療人としての研鑽を積み、それぞれの専門性を高めチーム医療に努めます。(職員の質の向上)
5. 職員の健康と安全に配慮するとともに、生活向上にも努めます。(職場環境)

患者様の責務

患者様に守って
いただきたいこと

1. 医療提供者に対して患者自身の健康に関わる情報を提供すること
2. 医療上理解できないことについて質問すること
3. 他の患者の治療や病院職員の医療提供に支障を来たさないように留意すること

患者様の権利

1. 良質な医療を安全かつ公平に受ける権利
2. 人格を尊重され医療提供者との協力関係の下で医療を受ける権利
3. 診療に関して十分な説明、情報を受ける権利
4. 治療方法などの自分の意志で選択する権利
5. 個人情報の秘密が守られ、私的な生活を乱されない権利